

おはようございます。いよいよ今日で一年間が修了します。3年生が卒業して、それぞれの教室には、これからの野村高校を担う1・2年生がいます。この一年間で本当に大きく成長したと感じます。卒業した3年生も含めて、もちろん見た目だけではなく、知識や技能、体力、そして心、何をとっても大きな進歩があったと思います。

今年度、各学期の式で次のようなお話をしてきました。

1学期には、まず、目標を立てゴールまで全力をあげてどのように走り抜けるか考えましょう。また、学科・学年を越えて皆さんが一つの学校として目標や成果を共有し、学校の魅力化・特色化としても行動してほしい

2学期には、東京オリンピックの試合から「諦めない強い気持ち」が大切である。また、墨彩画家「角藤博敏」先輩の人生から「一つのことに打ちこむ集中力と粘り強さ、前向きな考え方」それから、ノーベル物理学賞の真鍋 淑郎（まなべ しゅくろう）先生のご功績から、「自分の知らない事や珍しい事、面白い事などに積極的に知ろうとする、探究心を忘れないこと。

3学期には、人の一生は若いうちの経験、学んだ知性、育まれた感性がその人の財産となる。一生涯の人生設計は、今の皆さんの青年期に確立してほしい。

さらに、これら各学期のお話に付け加えるならば、皆さんには、「困難に打ち勝って、常にチャレンジを続けること。そして、目標に向かって積極的に行動し、努力を継続し壁に立ち向かってほしい」ということを切に願っております。学校生活や家庭生活の中で、困難に遭遇することもあるでしょう。そこから、けっして逃げないでほしいと思います。どんなことでも、できないことが、できるようになるのは簡単ではありません。場合によっては、たくさんの時間が必要になることもあります。ところが、人は2、3回チャレンジして、できなかつたりすると、そこでやめてしまうことがあります。私たちは普段の生活の中で、多少の努力をした程度で、「努力したのにできない」などとあまりにも、簡単にあきらめてしまっていることはありませんか。できなければ、もっともっと時間をかけて、できるようになるまで、何度でもチャレンジを続けてほしいと思います。

そして、「自分に乗り越えられない壁はない」という気持ちを持つことも、大切になります。さらに、「周りの人に支えてもらいながら」という気持ちも、大きな鍵となります。人は一人では生きていけません。「持ちつ持たれつ」という言葉のとおり、人はお互いに支えあうことで、一人では乗り越えられそうにない壁を乗り越えていくことができます。これからの長い人生、「どんな時も決して諦めることなく、自分を信じ、周囲の人の支えを受けながら、力強く歩み続けて下さい。そうすれば、必ず、素敵な未来が開けていくものと、私は信じています。

コロナ禍の令和3年度、皆さんは野村のチーム力で乗り越えてきました。来る令和4年度が、皆さんにとって、今年度にもまして、成長と飛躍の年となることを祈っています。それでは、4月8日、新しい学年、新しい教室、そして新しい先生方とともに、スムーズなスタートが切れるよう、この春休みを有意義に過ごしていただくことをお願いし式辞とします。

令和4年3月18日
愛媛県立野村高等学校長 松永 泰